

令和 4 年 6 月 16 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K03598

研究課題名(和文) 中国対外政策決定の構造的特徴——「回転ドア」を手掛かりに

研究課題名(英文) "Revolving Door": Structural Features of Chinese Foreign Policy Decision-Making

研究代表者

青山 瑠妙 (Aoyama, Rumi)

早稲田大学・国際学院(アジア太平洋研究科)・教授

研究者番号：20329022

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は「回転ドア」を切口に、中国の対外政策決定プロセスにおける構造的な特徴を明らかにした。中国建国から現在に至るまで、対外政策にかかわる組織間の「回転ドア」は主に以下の三つにおいて観察される。党(中聯部)－政府(外交部)； 地方政府－国有企業； 党・政府・軍・国有企業・地方政府－学者。

本研究を遂行する上で、まず中国の主な外交組織、そして主な外交官のデータベースを構築した。そして対外政策の人的にネットワークにおいて、党と政府には相関関係がみられるが、近年外交部と中聯部の役割分担が顕著である。他方、地方政府に係るネットワークは中国の縦割りの統治構造(「条」)に強い影響を受ける。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は「制度」と「人的ネットワーク」の両側面から総合的に中国の対外政策決定プロセスを検討した。権威主義体制下の中国では、「制度的デザイン」のみならず、「人的ネットワーク」も対外政策決定に多大な影響を及ぼしている。つまり、中国において統治の制度化が進んでいる一方で、こうした制度に張り巡らされているパトロン・クライアント関係、地縁血縁関係も政策決定に影響を与えている。

「人的ネットワーク」に着目した従来の研究は政府と国有企業の関係などにフォーカスしたものが多く、対外政策分野の「人的ネットワーク」に関する研究は極めて限られている。こうしたことから、本研究で構築したデータベースは大きな意味を持つ。

研究成果の概要(英文)：By analyzing the case of "revolving door", the study attempts to identify structural features in China's foreign policy decision-making process. The following three types of "revolving doors" can be observed. (1) Party (International Department of the CPC Central Committee) - government (Ministry of Foreign Affairs); (2) local governments - state-owned enterprises; and (3) Party, government, military, state-owned enterprises, local governments - academics.

In conducting this research, I first created a database of China's major diplomatic organizations and leading diplomats. Within the interpersonal network of foreign policy, there is a strong linkage between the party and the government, and in recent years there has been a clear division of roles between the Ministry of Foreign Affairs and the International Department of the CPC Central Committee. On the other hand, networks related to the local level are strongly influenced by China's vertical governance structure ("tiao").

研究分野：中国の対外政策

キーワード：政策決定 地域研究 国際関係 中国の外交

1. 研究開始当初の背景

社会の多元化が進行している中国では多様なアクターが対外政策にかかわるようになった。「誰がどのように政策決定にかかわり、どのような影響を及ぼしているのか」は中国の対外政策決定の構造を理解する上で最も重要な研究テーマとなっている。

「誰が」にかかわる研究は比較的進んでおり、先行研究では「党・政・軍・地方・企業」の5つの「関与者」が世論を巻き込みつつ、様々なルートを通じて対外政策決定に影響を与えていることが明らかとなっている (Linda Jakobson, 2010; 浅野亮, 2011)。こうした先行研究を踏まえて、本研究は中国の対外政策決定にかかわるアクターとして、「党、政、軍、地方、学者」に焦点を絞り、対外政策決定のプロセスを明らかにする。

政治研究の分野では、中国政治体制の強靱性をめぐって論争が繰り返されている。Andrew J. Nathan (2013) や Bruce J. Dickson (2016) は社会の変化に応じた統治の制度化や組織化に着目し、権威主義体制の強靱性を指摘している。これに対して、Cheng Li (2012) をはじめとする多くの研究者は中国政治における「人治」の側面に着目し、制度化の限界を強調する。このような解釈の違いを踏まえ、本研究は中国において統治の制度化が進んでいる一方で、こうした制度に張り巡らされているパトロン・クライアント関係も政策決定において重要な役割を果たしているとの考え方に立脚し、「制度化」と「人的ネットワーク」の両面から対外政策決定の構造的特徴を解明する。

つまり、研究途上にある「どのようにどのような影響を」という問題の解明をする上で、制度化と人的ネットワークの双方に着目し、中国の対外政策決定の特徴を明らかにしたい。

2. 研究の目的

本研究は「回転ドア」を通して、「制度的デザイン」ならびに「人的ネットワーク」が中国の対外政策決定に与える影響を解明する。「回転ドア」は人的ネットワークを研究する上で有効な概念であり、本研究において中国の実態に即して、「党・政・軍・地方・企業」間の人事の動きを指す。

対外政策決定にかかわる制度化のプロセス

中国の対外政策決定にかかわる制度化は以下の三つの段階を経て今に至っている。

建国～1958年：「党・政府・軍」間の分業体制の構築と確立。

1978年～2006年：集権から分権へ。

2006年～：対外組織に対する規制強化から集権へ。(* 1959年-1978年の間は制度的改革が行われておらず、政治的混乱の中で1958年体制が維持されていた)

2006年までの中国の対外政策決定は一定程度の研究の蓄積があり、1978年から2006年の政策形成と執行については「分断化された権威主義」とも称されている。本研究はこうした先行研究を踏まえ、習近平体制に入ってから、対外政策分野における集権体制がどのように構築され、また集権体制が政策決定と政策執行にどのような影響を与えたのかを明らかにする。

エリート間の人的ネットワーク

下記 3 つの回転ドアに焦点を当て、人的ネットワークが中国の対外政策決定に与える影響を明らかにする。

党（中聯部） 政府（外交部）
地方政府 国有企業
党・政府・軍・国有企業・地方政府 学者

は中国建国当初から現在に至るまで見られる現象であり、 は 1978 年以降の動き、は特に 1990 年代に入ってから活発化している。本研究は習近平体制下において、上記 3 つの回転ドアの在り方にどのような変化が生じたかを考察し、人的ネットワークから見た中国の対外政策決定の構造的特徴を明らかにする。

データベースの構築

「エリート間の人的ネットワーク」の研究を進めるうえで、対外政策の形成と決定に関わった、あるいは関わっている「人」に関する調査は必須となる。調査結果を収集、加工したデータベースの構築も行う。

3 . 研究の方法

本研究は対外政策にかかわる組織間に存在する「回転ドア」を切り口として、「制度的デザイン」と「人的ネットワーク」の両側面から、中国の対外政策決定の構造的特徴を分析する。

具体的には、以下の四つの段階に分けて、研究を進める。

対外政策決定にかかわる制度化のプロセス

党（中聯部）と政府（外交部）の関係
地方政府と国有企業の関係
党・政府・軍・国有企業・地方政府と学者の関係

4 . 研究成果

本研究に関して、主に三つの研究成果を上げることができた。

中国の対外政策にかかわる組織の指導者、外交部の部長、副部長クラスに関する情報収集を行い、中国の対外政策分野における人的ネットワークに関するデータベースを構築した。このデータベースは、今回の研究のみならず、データを持続的に更新することになり、今後の研究の基盤ともなりうる貴重な財産となる。

本研究は習近平時代の対外政策分野における集権化のプロセスに焦点を当て研究を行い、中国の対外政策決定に関して次のような知見を得ることができた。

(1) 制度化のプロセス

1980 年代以降の制度的分権化が対外政策決定に与える影響において、これまでの研究は

制度上の特徴となる「タテ(条)」と「ヨコ(塊)」への注目はごくわずかしかなかった。しかし、2006年以降の集権化プロセスは主に地方レベルへのコントロール(「タテ(条)」)が重視されている一方で、各省庁への権限への制限は行われておらず、組織間の連携(「ヨコ(塊)」)も依然として十分に機能していない。

つまり、2006年以降の中国の対外政策決定プロセスにおいて、「タテ(条)」の集権と「ヨコ(塊)」の分権は大きな特徴となっており、地方政府、国有企業による政策へのコミットは限定されるようになった。その一方で、政府機関、軍や一部の学者が政策形成に与える影響は依然と大きい。

(2) 人的ネットワーク

習近平体制下で繰り広げられている「反腐敗運動」は特に地方政府と国有企業への打撃が大きい。このため、地方政府と国有企業の回転ドアは機能せず、地方政府や地方シンクタンクによる発信力も弱体化した。他方、党・政府・軍の分業体制は依然として維持されている。

党(中聯部)と政府(外交部)との間で分業体制がさらに深化する一方、地方組織間の人的なつながりも相対的に強化されている。また対外政策分野での集権プロセスにおいて、外交部の役割が突出していることも特徴的である。

参考文献

Linda Jakobson and Dean Knox, “New Foreign Policy Actors in China”, *SIPRI Policy Paper* (26), 2010.

浅野亮「中国の対外政策方針の変化：その決定メカニズムとプロセス」、『国際問題』, No.602、2011年6月、36-47頁。

Andrew J. Nathan, “China at the Tipping Point?: Foreseeing the Unforeseeable”, *Journal of Democracy*, 24:1, 2013 pp.26-40.

Bruce J. Dickson, *The Dictator's Dilemma: The Chinese Communist Party's Strategy for Survival*, Oxford University Press, 2016.

Cheng Li, “The End of the CCP's Resilient Authoritarianism? A Tripartite Assessment of Shifting Power in China”, *The China Quarterly*, Vol.211, September 2012, pp.595-623.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 5件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 225
2. 論文標題 「Westlessness」(?)と中国の台頭: 米・中・欧州の攻防	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 世界平和研究	6. 最初と最後の頁 4 - 5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 2
2. 論文標題 中国とバイデン新政権との新しい「競・合関係」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 三田評論	6. 最初と最後の頁 46 - 51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 4
2. 論文標題 厳しい局面でも、戦略を堅持する中国の対外政策	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 USJI Voice	6. 最初と最後の頁 NA
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Rumi Aoyama	4. 巻 NA
2. 論文標題 Power and Motivation in China's Foreign Policy	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 East Asia Institute Working Paper	6. 最初と最後の頁 NA
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 7
2. 論文標題 中国国家安全中の脅威認知	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 欧亜研究	6. 最初と最後の頁 19 - 28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Rumi Aoyama	4. 巻 July-September
2. 論文標題 Free Trade Leadership and China's Economic Liberalisation	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 East Asia Forum	6. 最初と最後の頁 35 - 44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 685
2. 論文標題 中国の対外政策の構造的変動: 「富国外交」から「強国外交」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 6 - 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 725
2. 論文標題 「強国外交」を進める中国と日本の役割	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 修親	6. 最初と最後の頁 6 - 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 3
2. 論文標題 China's Public Diplomacy towards Southeast Asian Nations	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Contemporary Japan and East-Asian Studies	6. 最初と最後の頁 1 - 36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 0
2. 論文標題 中国外交の世界戦略 ー 帯一路構想と対北朝鮮政策を軸に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 平和政策研究所	6. 最初と最後の頁 1 - 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 0
2. 論文標題 Japan-China Ties are tightening	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 East Asia Forum	6. 最初と最後の頁 1 - 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 49
2. 論文標題 中朝の「伝統的友好」は復活するか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 50 - 55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 0
2. 論文標題 馬來西亜重新掌握亜細安式主導権？	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 聯合早報	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 0
2. 論文標題 Japan ' s Balancing Act Tours Beijing	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 East Asia Forum	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 297
2. 論文標題 中国への関与政策は失敗したのか：中国と米国、EUそして日本	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日中経協ジャーナル	6. 最初と最後の頁 10 - 12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 0
2. 論文標題 岐路に立つ対米関係：危機意識高める中国	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Janet e-world	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 3
2. 論文標題 ハイテク冷戦下の日中関係	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本與亜太研究	6. 最初と最後の頁 206 - 215
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 0
2. 論文標題 転換点を迎える中国外交	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経団連タイムス	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 44
2. 論文標題 中国・一帯一路構想の広がりその「死角」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 73-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rumi Aoyama	4. 巻 6:2
2. 論文標題 Chugoku Seiji Gaiko no Tenkanten: Kaikaku Kaiho to "Dokuritsujishu no Taigai Seisaku" [China Looks Back: Mao's Legacy in the Open-Door Era]	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Contemporary East Asia Studies	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 21
2. 論文標題 日本の中国学研究と東亜中国学研究的課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中国観察	6. 最初と最後の頁 60-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計1件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 青山瑠妙
2. 発表標題 中国と国際秩序
3. 学会等名 国際政治学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 川島真	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 229
3. 書名 現代中国を読み解く三要素 (第6章: 中国の国際社会におけるプレゼンス)	

1. 著者名 廣野美和	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 356
3. 書名 一帯一路は何をもたらしたのか: 中国問題と投資のジレンマ (第4章: 計画外交で推進されている一帯一路構想)	

1. 著者名 菅英輝	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 317
3. 書名 競合する歴史認識と歴史和解	

1. 著者名 福田保	4. 発行年 2018年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 89 - 106
3. 書名 アジアの国際関係 (第4章中国とアジア)	

1. 著者名 Shihoko Goto, Rumi Aoyama and Abraham Denmark	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Wilson Center	5. 総ページ数 23 - 32
3. 書名 U.S. National Security Strategy: Implications for the U.S.-Japan Alliance	

1. 著者名 Tse-Kang Leng and Rumi Aoyama	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 180
3. 書名 Decoding the Rise of China: Taiwanese and Japanese Perspectives	

1. 著者名 益尾知佐子 青山瑠妙 三船恵美 趙宏偉	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 263
3. 書名 中国外交史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Can a Xi charm offensive win over Japan?
<https://www.eastasiaforum.org/2020/08/21/can-a-xi-charm-offensive-win-over-japan/>
 中評智庫：「一带一路」日本学者怎想#20040；看
<http://hk.crntt.com/doc/1056/1/5/8/105615803.html?coluid=1&kindid=0&docid=105615803&mdate=1224141852>
 【大学最前線 この人に聞く】新型コロナ禍で読み解く日本・中国・米国と「世界のかたち」
<https://www.sankei.com/world/news/200319/wor2003190006-n1.html>
 以5G技術為中心、推動更為積極的中国对外政策
http://share.gmw.cn/www/xueshu/2019-04/18/content_32755301.htm
 「中国とアジア」研究の特徴ー 『国際政治』誌の視点から
[http://jair.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/documents/Japan-China Ties are tightening](http://jair.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/documents/Japan-China%20Ties%20are%20tightening)
<http://www.eastasiaforum.org/2018/05/24/japan-china-ties-are-tighteni>
 「中国とアジア」研究の特徴 『国際政治』誌の視点から
<http://jair.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/documents/TF>
 Japan's Balancing Act Tours Beijing
<http://www.eastasiaforum.org/2018/10/25/japans-balancing-act-tours-beijing/>
 岐路に立つ対米関係：危機意識高める中国
<http://janet.jw.jiji.com>
 米中ハイテク冷戦と日本
https://yab.yomiuri.co.jp/adv/wol/opinion/gover-eco_190225.html
 Getting down to Business on Japan-China Relations
<http://www.eastasiaforum.org/2017/08/21/getting-down-to-business-on-japan-china-relations/>

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------